

災

disaster

すべての人に 情報を伝えるために

コミュニティFMの強みは、何といつても地域密着性。大規模な風水害や地震が発生した際は、停電やインターネットの不通などにより、行政からの情報が遮断されてしまう可能性もあります。乾電池があれば聴けるラジオは、いわば災害時の切り札。コミュニティFMなら、道路の被害や避難所の開設状況など、自分が住んでいる地域に特化した情報を集めることができるため、災害が増加する近年では注目度が高まっています。

このページでは、地震・台風といった災害時のFMいずのくにの役割や、災害時にコミュニティFMが活躍した全国の事例を紹介します。

FMいずのくにの災害時の役割は、大きく分けて2つあります。

1つ目は、広域の放送局などではカバーできない、地域の細かい情報を発信することです。市内の聞きなじみのある地名が、どのような被害を受けているのかが分かるので、より危機感のある情報を伝えることができます。

2つ目は、リスナーの心を落ち着かせることです。安心感を求めている人もいるので、災害情報だけでなく、時には落ち着いた音楽を流して、リスナーに平常心になつてもらおうにしています。

現在ではSNSなどから簡単に情報を収集することができ、過去の災害ではうその情報が流れたこともあり、信用度が欠ける場合があります。FMいずのくにでは、不確定な情報は絶対に発信せず、行政などから出される正確な情報のみを発信します。特に、市で災害対策本部が立ち上がった場合は、スタッフを派遣し、市からの情報をすぐ発信できる体制を取ります。



FM いずのくに
局長 神田 凌介 さん

正確な情報をいち早く発信

「やさしい日本語」の取り組みを広める

現在、FMいずのくにでは、私がパーソナリティーを務める毎週火・金曜日11時～13時の『Hello! ポンポンRadio』内で、「やさしい日本語」の紹介をしています。

「やさしい日本語」は、阪神淡路大震災をきっかけに作られた、普通の日本語よりも簡単な、外国人にも分かりやすい日本語です。災害時、避難所に張り出される情報は、ほとんどが日本語。日本に来て間もない外国人などは、会話はできても、複雑な漢字を理解することは困難です。そんなと



FM いずのくに
パーソナリティー 大橋 栄子 さん

全国の事例①

台風

かずさエフエムの場合
(千葉県)



千葉県に甚大な被害をもたらした令和元年の台風15号。暴風の影響で停電が千葉県各地で発生し、ライフラインも寸断されました。

送が不可能に。約20km離れた、送信所がある鹿野山(君津市)の山頂に仮設スタジオを設置し、放送を行いました。

木更津市・君津市・富津市・袖ケ浦市が放送エリアのコミュニティFM「かずさエフエム」では、送電線の鉄塔倒壊による停電の影響で、スタジオがある木更津市からの放

かずさエフエム代表取締役の石村比呂美さんは、「コミュニティFMだからこそできる内容の放送を行いました。例えば給水車の位置情報を伝えるときは、住所ではなく、近くの目印となる建物を言うなど、地元



仮設スタジオから放送する様子
(写真提供: かずさエフエム)

のリスナーに分かりやすく場所が伝わるよう意識しました」と、当時を振り返ります。スタッフは、自宅も被災している中で、仮設スタジオと市街を何度も往復しながら、10日間にわたって災害情報の発信を続け、被災者の心を元気づけました。

全国の事例②

地震

ラジオ石巻の場合
(宮城県)



発災時のスタジオの様子
(写真提供: ラジオ石巻)

東日本大震災による津波で壊滅的な被害を受けた被災地のひとつに、石巻市(宮城県)があります。ライフラインが途絶えた中で、被災者に情報を届けたのはコミュニティFM「ラジオ石巻」でした。スタジオは津波の被害を受けませんでしたが、当日夜にはバッテリーが切れ、放送が寸断。仮設スタジオを設置し、放送を再開してからは、臨時災害放送局としての運用が開始され、市民の安全情報や避難者名簿の読み上げ、ライフラインの状態、行政からの情報などを発信し続けました。

ラジオ石巻アナウンサーの松浦佳奈さんは、「発災直後は、家族の安否確認やSOSのメールが殺到

し、中には直接スタジオに来て、被害の状況を語る人もいたと聞きます。ライフラインが止まり、行政からの情報もなく、ラジオが地域の情報が分かる唯一のメディアでした」と話します。ラジオ石巻は、震災前から、地元根付いたラジオ局だったため、リスナーからは信頼できるメディアとして重宝されました。